

き・せ・き

港区立港南中学校 第3学年
学年だより第21号
令和3年9月30日(木)

運動会を終えて

9月20日(月)に中学校最後の運動会が終わりました。運動会を終えて、作文を書きました。

1学年の作文では、「3年生がかっこよかった」「あんな素晴らしいソーラン節を私もやりたい」と3年生の姿を見て感動した様子が書かれていました。「行事に燃える」伝統を受け継ぎましたね。

3学年の皆さんも、運動会を終えて様々なことを感じたようです。各クラスの代表生徒の作文を、一部抜粋して以下に載せます。



最初に運動会を実施すると聞いた時、正直驚いたし、不安もありました。けれど、みんなが気持ちを一つにして、大縄をみんなで跳ぶことを決意したクラスの話の動画を観て、仲間と協力する大切さを改めて感じ、私たちも運動会の競技をみんなで協力して行いたいという思いが強くなりました。また、この新型コロナウイルスの状況の中、みんなで協力をし、大縄や全員リレー、ソーランなどを行うチャンスがあることにうれしさや感謝の気持ちでいっぱいになりました。練習の中では、苦労や失敗をすることもたくさんありましたが、その度に励まし合い、話し合いを行いました。こっちの方が良い、あっちの方がやりやすいと対立することもありましたが、私はどちらの考えも正解であるし、大切な仲間の意見であると思いました。そして、みんなの考えを踏まえた上で全員が納得できるようにたくさんチャレンジし、一つのものを作り上げられるように頑張りました。試していく間に、失敗が減っていき、みんなが一つになって息が合い、仲も深まっていくように感じる事ができました。私は、みんなで多く跳べること、速く走れることが協力だと思っていましたが、本当の協力とは、みんなの気持ちが一つとなりより良くしてこうと全員で考えることであると体感して学ぶ事ができました。そして、その協力があつたからこそその優勝であつたのではないかと私は思います。

A組

僕は運動会が嫌いでした。1、2年生の時は運動会にあまり積極的に取り組まず、だらだらとやっており、悪い意味で目立っていたと思います。しかし3年生になり、3年生の自覚をもち、積極的に運動会に取り組むことができました。特に、「ソーラン節」をしっかりとできました。僕にとって、ソーラン節は難しく、振り付けを覚えるのも大変でした。そのせいか、まったくやる気が出ませんでした。今回の運動会では、当たり前のことですが、しっかりとやる事ができました。「当たり前のことを当たり前にする」ができたと思いました。

1年生以来、コロナのせいで僕たちは運動会ができませんでした。しかし、こうして運動会ができているのも、先生やPTAの方々のおかげなので、感謝をしています。そして、思い出も作ることもできました。それは大縄跳びです。B組は他クラスとの差が大きく、あまり跳べていませんでしたが、本番になると、みんな一致団結をし、いつもは30回くらいですが、70回跳ぶことができました。3学年の中ではビリでしたが、自分たちの中ではとてもうれしかったです。

B組

大変な練習を終えた後で私の中で得たものがいくつかある。

まず、頑張ることのやりがいだ。今回、自分で立候補した係を果たしていくこと自体が大変だったのにも関わらず、実行委員としてクラス全体をまとめなければならないという責務もあった。しかし、全部やりとげられた。持てる力をすべて出しきれた。頑張っという、と初めて自分を褒めてあげられた。

もうひとつは、団結することの嬉しさだ。2,3年生と行事があまりなかった中で唯一クラスの団結を確かめられるのは運動会だと思っている。この、運動会が始まる前までは、男女仲がとても良いというわけではなかった。しかし、大縄を跳ぶ前の男女で行った円陣、リレーで誰かれ関係なく「がんばれ」と応援したこと、私はそれがとても楽しくうれしくて、3年C組の本気を感じられた団結だった。

この運動会を通して私は、様々な面で成長できたと思っている。頑張ることのやりがいを得たのは本当に自分の中で良かったと思っている。この力を受験勉強にあて、よりよい学校生活を送りたい。また、自分を責めすぎず、たまには褒めてあげたい。

C 組

中学校生活最後の運動会。3年生として、1,2年生の模範となり、来年、再来年も後輩を輝かすため、港南中の大切な伝統を伝えていくこと。クラス一丸となり、最高の運動会を作り上げたいということ。様々な思いを胸に中学校最後の運動会へ臨みました。

「D 組!絶対勝つぞ!」運動会当日、応援団長の掛け声と共に、クラス全員で円陣を組み、大縄へ挑みました。今年はコロナ禍での開催ということもあり、全員揃っての練習ができていませんでした。運動会前最後の練習でも全員そろうことはありませんでしたが、170回という記録を出しました。もちろん、この中には最初は全然跳べていなかった子もいました。それでもこの記録を出せたのは、どうしたら沢山跳べるのか何回も何回も作戦を立て、毎回の練習に参加し、数えきれないほどの縄を跳んできた子たちだからこそ出せた記録でした。そんな私たちは、きっと本番もこの調子でいけるだろうと信じていました。気持ちとは裏腹に、結果は最下位でした。すごく悔しかったです。しかし、いろいろな事情があった中で開催された運動会だったので、クラス一丸となり、全員で運動会ができたことに意味があるのだと思いました。それぞれ事情はあったけれど、D組の団結力と最後は笑顔で終えられたことに絆を感じました。中学校最後のクラスがD組で良かったなと思いました。

D 組



次は最後の学芸発表会!

運動会に続く良い思い出にしましょう!

